KENWOOD

MP3/WMA/AAC対応デュアルサイズCD/カセットレシーバー

DPX-40

MP3/WMA/AAC対応デュアルサイズCD/MDレシーバー

DPX-50MD

MP3/WMA/AAC対応デュアルサイズCD/MD/USBレシーバー

DPX-U60MD

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド

Kenwood Corporation

MD GROUP

Ⓒ B64-3962-00/01 (J)

Contents

この取扱説明書の読みかたや、全般的な注意事項が書いてあります。最初に一読してください。

ここを読めば、ひととおり操作できます。

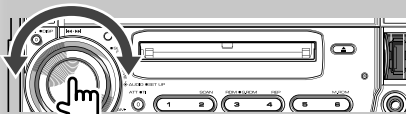
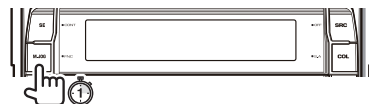
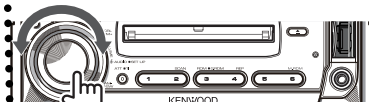
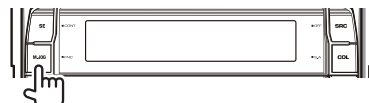
各ソースのいろいろなプレイ方法が書いてあります。ちょっと慣れたら読んでください。

本機のいろいろな設定や調整方法が書いてあります。

トラブルの解決方法などが書いてあります。思いどおりに動かないときに読んでください。

本書の読みかた

この説明書では、イラストを使って操作を説明します。

取扱説明書に記載されているディスプレイ部やパネルの表記は操作説明を円滑に行うための表示例です。
このため、実際の機器とは異なることや、実際にはありえない表示パターンが記載されていることがあります。

上記マーク表記例は実際の操作とは異なります。

使用できるモデル
機能によっては、使用できるモデルに制限がある場合があります。使用できるモデルを下のマークで表します。

: DPX-40

: DPX-50MD

: DPX-U60MD

短く押す
で示したキーまたはノブを押す。

1秒以上押す
で示したキーまたはノブを1秒（または2秒/3秒）以上押す。

動作が始まるまで、または画面の表示が変わるまでキーを押し続けることを表しています。
左記の例では1秒間押すことを示しています。
記載された数字を目安にしてください。

ディスプレイ表示
この表示になるまで左の操作を行います。

その他のマーク
ケガなどを防ぐための大切な注意事項が書かれています。

特記事項や補足説明、制限事項や参照ページなどが書かれています。また、機種に依存する事柄も書かれています。

その項目での全般的な注意事項や参照ページなどが書かれています。

表示の切り替わり
操作するたびに、ここに示した順番で表示が切り替わります。

ディスプレイ表示

安全上のご注意

製品を安全にご使用いただくため「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について：
この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為にいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

注意

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。近傍に具体的な注意内容が描かれています。

禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

実施

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。近傍に具体的な内容が描かれています。

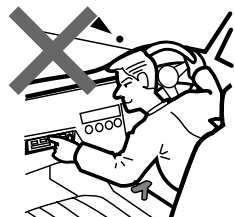
お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

交通事故の発生を防ぐため、必ず以下の事項をお守りください。

警告

実施

運転者が以下のような行為をするときは、必ず、安全な場所に車を停車させてから、行ってください。

● カーオーディオの操作（音量調節、ディスクの挿入やUSBデバイスの接続・取り出しなど）

実施

運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度でご使用ください。

実施

USBデバイスとUSBケーブルは、運転に支障をきたさないような場所に固定してください。

以下のような異常があった場合は、直ちに使用を中止し、購入店、ケンウッドサービスセンター、または営業所へご相談ください。そのまま使用すると、火災その他の事故の原因となります。

- 音が出ない
- ディスプレイが表示されない
- 異物が入った
- 水がかかった
- 煙が出る
- 変な匂いがする

禁 止

修理は必ず購入店、ケンウッドサービスセンター、または営業所にご依頼ください。
お客様による修理は、火災その他の事故の原因となります。

禁 止

修製品の分解や改造はしないでください。
火災その他の事故の原因となります。

⚠注意

禁 止

ディスク挿入口に手や指を入れないでください。ケガをすることがあります。

禁 止

本製品内に水や異物を入れないでください。発煙、発火、感電の原因となります。

禁 止

製品は、車載用以外としての用途では使用しないでください。

禁 止

本製品に、強い衝撃を与えないようにしてください。
ガラス部品を使用しているため、割れてケガをするおそれがあります。

実 施

本製品の取り付け・配線は技術と経験が必要です。
安全のため<お買い上げの販売店>にご依頼ください。

使用上のご注意

DPX-40/50MD/U60MDに接続できるシステムについて

本機には、1998年以降に発売のケンウッド製ディスクチェンジャーが接続できます。接続できるディスクチェンジャーの機種名はカタログをご覧ください。

●

“O-Nスイッチ”の付いているケンウッド製ディスクチェンジャーは“N”側に設定してください。

●

接続している機種により、使用できる機能や表示できる情報が異なる場合があります。

●

別売品のCD/MDスイッチングユニット“KCA-S220A”を使用すると、ディスクチェンジャーなどを合計2台まで接続できます。接続などの詳しい説明は「接続」(p42)および、KCA-S220Aに付属の取扱説明書をご覧ください。

●

本機およびKCA-S220Aには1997年以前に発売のケンウッド製ディスクチェンジャー/CDプレーヤー、および他社製のディスクチェンジャーは接続できません。接続すると、破損や故障の原因となります。

USBデバイスのご使用上の注意

USBデバイスを車内に放置しないようにしてください。直射日光や高温などの影響により、USBデバイスが変形や故障する場合があります。

●

本機で使用するオーディオファイルはバックアップをしてください。USBデバイスの使用状況によっては保存内容が失われる場合があります。保存データが失われたことによる損害については、当社はその補償を一切いたしません。あらかじめご了承ください。

●

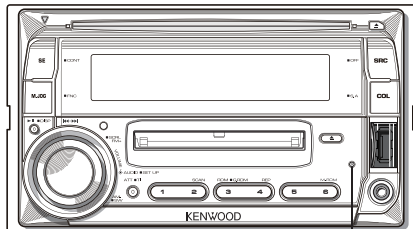
本製品にUSBデバイスは付属されていません。別途、市販品を購入してください。使用できるUSBデバイスについては「オーディオファイル」（p34）を参照してください。

●

使用するUSBケーブルにはCA-U1EX(別売品)をお薦めします。USB規格以外のケーブルを使用した場合やケーブルの総延長が5m以上になった場合は、正常にプレイできない場合があります。

異常にお気づきのときは

本機の異常にお気づきのときは、まず「Troubleshooting」（p35）を参照して解決方法をお調べください。解決方法が見つからないときは、本機のリセットボタンをペン先などで押してください。

●

リセットボタンを押しても正常に戻らないときや、下記のような場合は、本機の電源をオフにして、購入店またはお近くのケンウッドサービスセンターへ相談してください。

- CDやMD、カセットが取り出せない。
- CDやMD、カセットを正しく入れ直してもインジケーターの点滅が続く。
- ディスクチェンジャーを接続しているのにディスクチェンジャーモードにならずに“AUX　EXT”と表示される。
- KCA-S220A、CA-C1AX/CA-C2AXが接続されていないときに“AUX EXT”と表示される。

お手入れについて

本機の前面パネルが汚れたときは、シリコンクロスか柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、中性のクリーナーを付けた布で汚れを落とし、その後クリーナーを拭き取ってください。
スプレー式のクリーナーなどを直接本機に吹きかけると、本機の機構部品に支障を与える場合があります。
また、固い布やシンナー、アルコールなどの揮発性のもので拭くと、傷が付いたり文字が消えることがあります。

オートアンテナ付き車に取り付けた場合

ラジオのアンテナが自動的に伸びるオートアンテナ車に取り付けた場合、チューナーモードにしたり交通情報機能をオンにすると、車両のアンテナが自動的に伸びます。天井の低い車庫に入る場合は、本機の電源をオフにするか、FM/AM放送以外のソースに切り替えてください。

表示できる文字について

本機で表示できる文字は、英数文字とカタカナです。

使用できるリモコンについて

本機で使用できるリモコンについては、カタログをご覧になるか、購入店にお問い合わせください。なお、操作方法はリモコンに付属の取扱説明書に記載されています。

温度について

直射日光下で窓を閉めきっていると、自動車内は非常に高温になります。
本機内部が60℃を超える高温になると、保護回路が動作してディスクの演奏ができなくなります。
このようなときは、車内の温度を下げてください。
保護回路機能が解除され、演奏ができる状態になります。もし正常に動作しないときはリセットボタンを押してください。

結露について

寒いときにヒーターを付けた直後など、本機の内部に露（水滴）が付くことがあります。これを結露といい、この状態ではディスクの読み取りができなくなります。
このようなときは、ディスクを取り出して約1時間ほど放置すると、結露が取り除かれます。
もし、何時間たっても正常に作動しない場合は、購入店またはケンウッドサービスセンターへ連絡してください。

レンズクリーナーについて

レンズクリーナーは使用しないでください。光学系部品に損傷を与えたり、イジェクトができなくなるなど、故障の原因になる場合があります。

使用できないディスク

特殊な形状のディスクは使用できません。必ず円形のものをご使用ください。円形以外のディスクを使用すると故障の原因になります。

●

記録面（レーベル面の反対側）が着色してあるものや汚れているディスクは引き込まない、取り出せないなどの誤動作をすることがあります。

●

COMPACT disc DIGITAL AUDIO / COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable / COMPACT disc DIGITAL AUDIO ReWritable マークの付いていないCDは使用しないでください。
前記マークの入っていないディスクは、プレイが正しくできない場合があります。

●

ファイナライズ処理を行っていないCD-RおよびCD-RWは再生できません。ファイナライズ処理については、お使いのCD-R/CD-RWライティングソフトやCD-RやCD-RWレコーダーの説明書をご覧ください。
このほかにもCD-RやCD-RWで記録されたCDは、記録状態により再生できない場合があります。

ディスクの取り扱いについて

ディスクの汚れや、ゴミ、キズ、反りなどが、音飛びなどの誤動作や、音質劣化の原因になることがあります。
取り扱いは記録面に触れないようにしてください。
（レーベルが印刷されていない面が記録面です）

●

記録面や、レーベルが印刷されている面に紙テープなどを貼らないでください。
CDにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどのノリがはみ出したり、はがした痕があるものはお使いにならないでください。そのままディスクプレーヤーにかけるとディスクが取り出せなくなったり、故障することがあります。

●

ディスクが汚れたときは、市販のクリーニングクロスや柔らかい木綿の布などで、中心から外側に向かって軽くふき取ってください。
従来のレコードクリーナー、静電防止剤や、シンナーやベンジンなどの薬品は絶対に使用しないでください。

●

本機からディスクを取り出すときは水平方向に引き出してください。
下側に強く押しながら引き出すとディスクの記録面に傷を付ける原因となります。

●

新しいディスクを使うときは、ディスクのセンターホールや外周部に"バリ"がないことを確認してください。
"バリ"がついたまま使用すると、ディスクが挿入できなかったり音飛びの原因になります。"バリ"があるときは、ボールペンなどで取り除いてから使用してください。

●

音質向上やディスク保護を目的としたディスク用アクセサリー（スタビライザー、保護シート、レンズクリーナーなど）は故障の原因となりますので使用しないでください。

●

8cmCDはアダプターは使用せず、そのまま挿入してください。8cmCDアダプターを使用するとディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因になります。

データ用のMDについて

データ用のMDは使用できません。音楽用のMDを使用してください。

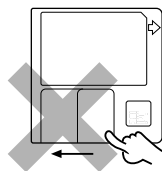
ラベルのはがれかかったMDは

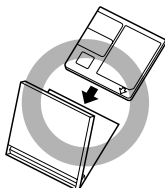
ラベルのはがれかかったMDは使用しないでください。ラベルが浮いていたり、はがれかかっているMDを使用すると、本機の中ではがれて取り出せなくなるなど故障の原因となります。

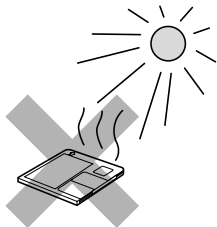
MDのお手入れ

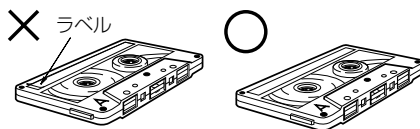
カートリッジ表面の汚れやゴミは乾いた布でふき取ってから使用してください。特に油汚れが付いた状態で使用すると、ディスクがローディングされなかったり、取り出せなくなることがあります。
また、お手入れされるときは、シャッターを開かないようご注意ください。

MDのシャッターについて

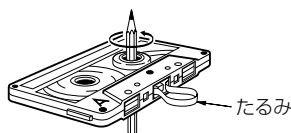
MDのシャッターは開けられないようになっています。無理に開けるとカートリッジが破損して使用できなくなります。
シャッターが何らかの原因で開いてしまったときには、記録部分を指で触らないようにしてください。記録部分に触れると使用できなくなったり、音飛びを頻繁に起こすようになります。

MDの保管

MDを長時間本機に入れたままにしないでください。また、取り出したMDは、MD専用ケースに入れて保管してください。

MDの保存

MDを直射日光の当たる場所（ダッシュボードの上など）など温度が高くなるような場所に放置しないでください。MDのカートリッジが変形して使用できなくなります。

ラベルのはがれかかったカセットテープは

変形したカセットテープやラベルのはがれかかったカセットテープを使用すると故障の原因になります。ラベルがはがれかかっているときは、貼り直してから使用してください。

カセットテープの取り扱いについて

テープにたるみがあるときは、図のように鉛筆などでたるみをなくしてから使用してください。

●

100分以上のカセットテープは大変薄く、テープがピンチローラーに巻き付いたり、切れるなどのトラブルが起こりやすいので使用しないでください。

●

エンドレステープは使用しないでください。

ヘッドクリーニングについて

本機を長時間使うと、ヘッドの表面にテープの磁性分やゴミが付着し、雑音が出たり音質が悪くなることがあります。このようなときは、クリーニングテープやヘッドクリーニングキットでヘッド部分を掃除してください。クリーニングテープ・ヘッドクリーニングキットはオーディオ専門店などで市販されています。中にはカーオーディオ用としては適さないものもありますので、確認のうえお買い求めください。

カセットテープの保存

カセットテープをダッシュボードの上、リアトレイの上など高温になる場所や、ヒーターの熱風のかかる場所へは置かないでください。

Basic Operation

共通操作

A 電源をオン/オフします

キーを押すと、電源がオンになります。
１秒以上押し続けると、電源がオフになります。

D 音量を調整します

C 交通情報を聴きます

キーを１秒以上押し続けると、交通情報を受信します。
もう一度１秒以上押し続けると、元のソースに戻ります。

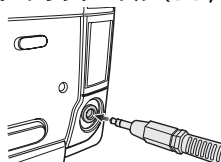
- コントロールノブⒹを左右に動かすと、交通情報の周波数（1620kHz/1629kHz/522kHz）を切り替えることができます。
- 交通情報の受信中にボリュームノブⒹで音量を調整すると、交通情報受信時の音量が記憶されます。

C 音量を素早く下げます

キーを押すと､音量が小さくなります(アッテネーター)。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。

- アッテネーターの動作中には ATT インジケーターが点滅します。

B 外部機器を聴きます

AUX端子にポータブルオーディオ機器などを、市販のミニプラグケーブル（3.5φ）で接続します。

次に を押して“AUX”ソースに切り替えます。

- 接続するミニプラグケーブルは、抵抗の入っていないステレオタイプのものを使用してください。

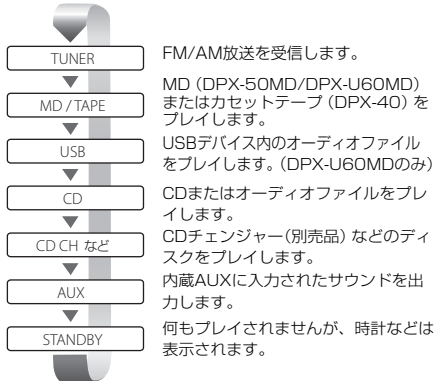
注 意　安全のために、周囲の音が聞こえる音量でお聴きください。

時計の調整について

時計の調整はファンクション設定で行います。詳しくは「ファンクション設定」（p28）をご覧ください。

A ソースを切り替えます

キーを押すたびに、プレイ可能なソースが次の順に切り替わります。

ソース	説明
TUNER	FM/AM放送を受信します。
MD / TAPE	MD（DPX-50MD/DPX-U60MD）またはカセットテープ（DPX-40）をプレイします。
USB	USBデバイス内のオーディオファイルをプレイします。（DPX-U60MDのみ）
CD	CDまたはオーディオファイルをプレイします。
CD CH など	CDチェンジャー（別売品）などのディスクをプレイします。
AUX	内蔵AUXに入力されたサウンドを出力します。
STANDBY	何もプレイされませんが、時計などは表示されます。

- プレイできるオーディオファイルの種類やメディア、フォーマットについては「オーディオファイル」（p34）をご覧ください。
- CDやオーディオファイルディスク・デバイスを挿入すると、挿入したメディアがプレイされます。
- AUXソース表示は「AUXネームセレクト」（p32）で変えることができます。

D 音質などを調整します

設定したいソースにしてからノブを押して調整する項目を選択し、ノブを左右に回して調整します。

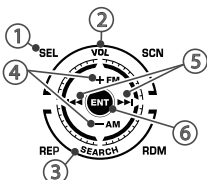
調整項目は次の順に切り替わります。

項目	説明
Natural など	音楽ジャンルに合ったイコライザーカーブを設定します。
BasLV	低音域の音量を調整します。（–8～+8）
MidLV	中音域の音量を調整します。（–8～+8）
TreLV	高音域の音量を調整します。（–8～+8）
BAL	左右の音量バランスを調整します。（L15～R15）
FAD	前後の音量バランスを調整します。（R15～F15）

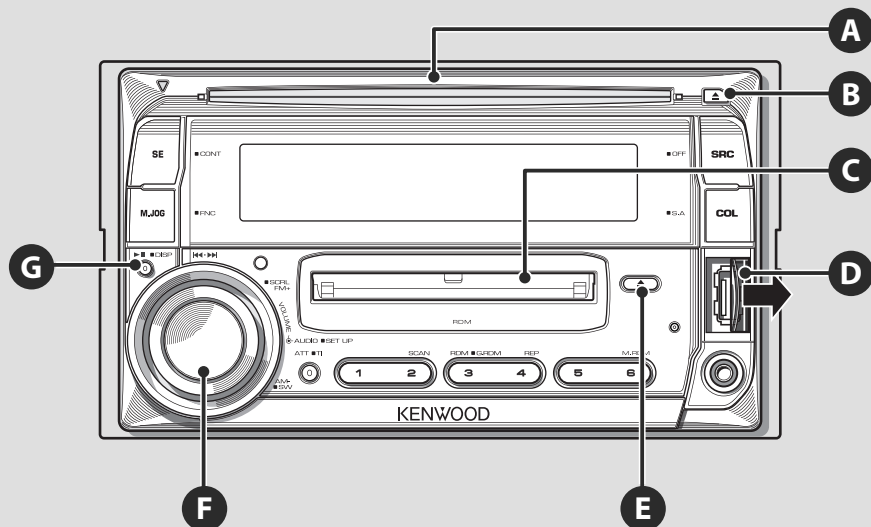
通常の表示

- 音質調整は、各種の設定により表示される項目が変わります。詳しくは「オーディオコントロール」（p26）をご覧ください。
- イコライザーカーブ、低音、中音、高音は、ソースごとに設定できます。
- イコライザーカーブの“User”設定は、“BasLV”、“MidLV”、“TreLV”の調整した値を呼び出します。
- イコライザーカーブの設定をすると、“BasLV”、“MidLV”、および“TreLV”は、イコライザーカーブの値に置き換えられます。
- 音質調整は、コントロールノブ以外のボタンを押しても解除できます。

操作ガイドインジケーターについて

現在可能な機能やコントロールノブの操作をインジケーターで案内しています。

① 現在セレクトモード（p19）中で、回すと曲の選択ができます。
② 現在コントロールノブで音量調整ができます。
③ 現在コントロールノブで項目の選択ができます。
④ コントロールノブを上下に動かす操作が有効な状態です。
⑤ コントロールノブを左右に動かす操作が有効な状態です。
⑥ コントロールノブを押す操作（表示項目を決定する操作）が有効な状態です。

Basic Operation

ミュージックディスクやオーディオファイルを聴く

A B

CDをプレイします

CD挿入口Ⓐ にCDを挿入すると、差し込んだCDがプレイされます。

CDを取り出します

CDイジェクトキーⒷ を押す。

- ディスクは水平に差し込んでください。
- 8cmディスクを取り出した後は、ディスク挿入口に放置せず、速やかにケースなどに保管してください。放置しておくと、振動などにより落下する場合があります。
- ディスクが入っているときは、インジケーターが点灯します。
- 通常のCDのほかに、オーディオファイルが収録されたCD-Rなどをプレイできます。
  プレイできるオーディオファイルの種類、フォーマットなどについては、「オーディオファイル」（p34）をご覧ください。
- その他のいろいろなプレイ方法については、「Music Disc & Audio File Listening」（p18）をご覧ください。

F

早送り/早戻しします

コントロールノブⒻ を右側へ押し続けると、押している間、曲が早送りされます。
また、コントロールノブⒻ を左側へ押し続けると、押している間、早戻しされます。

- オーディオファイルの早送り/早戻し中には音は出ません。

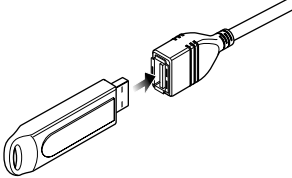
F

プレイするフォルダ/ディスク（ディスクチェンジャー中）/MDグループを選びます

コントロールノブⒻ を上側へ押すと、次のフォルダ/ディスク/MDグループの曲がプレイされます。
コントロールノブⒻ を下側へ押すと、前のフォルダ/ディスク/MDグループの曲がプレイされます。

B D

USBデバイス内のオーディオファイルをプレイします（DPX-U60MDのみ）

USBメモリーなどのUSBデバイスを**D**に接続すると、USBデバイスのプレイが始まります。

USBデバイスを取り外します

イジェクトキー**B**を２秒押してリムーブモードにしてから、USBデバイスを取り外します。

リムーブモードになると “Remove” と表示されます。

- リムーブモードにしないでUSBデバイスを取り外すと、USBデバイス内のデータが破損する場合があります。

- USBデバイスを接続中は、 インジケーターが点灯します。
  また、USBデバイスを接続していないときに、USBソースにすると “No Dvice” と表示されます。
- プレイをストップした後に再びプレイすると、ストップしたところからプレイを再開します。USBデバイスを取り外した場合でも、USBデバイスの内容が変わっていなければ、ストップしたところからプレイを再開します。
- プレイできるオーディオファイルの種類、使用できるUSBデバイスの種類などの詳細については、「オーディオファイル」（p34）をご覧ください。
- その他のいろいろなプレイ方法については、「Music Disc & Audio File Listening」（p18）をご覧ください。
- USBデバイスのコネクタは奥まで確実に差し込んでください。

C E

MDをプレイします（DPX-50MD/DPX-U60MDのみ）

MD挿入口**C**にMDを挿入すると、差し込んだMDがプレイされます。

MDを取り出します

MDイジェクトキー**E**を押す。

- MDが入っているときには インジケーターが点灯します。
- 本機にはMDグループ管理機能があります。詳しくは「MD Group」（p34）をご覧ください。
- お買い上げ時の状態では、MDグループ管理機能はオフになっています。MDグループ管理機能を使うときには、この機能をオンにしてください。詳しくは「ファンクション設定」（p28）をご覧ください。
- Hi-MD用ディスクやHi-MD形式でフォーマットしたディスク、データ用MDは使用できません。従来の音楽用のMDを使用してください。
- その他のいろいろなプレイ方法については、「Music Disc & Audio File Listening」（p18）をご覧ください。

G

プレイ/ポーズします

プレイを一時停止します。

もう一度押すと、プレイを再開します。

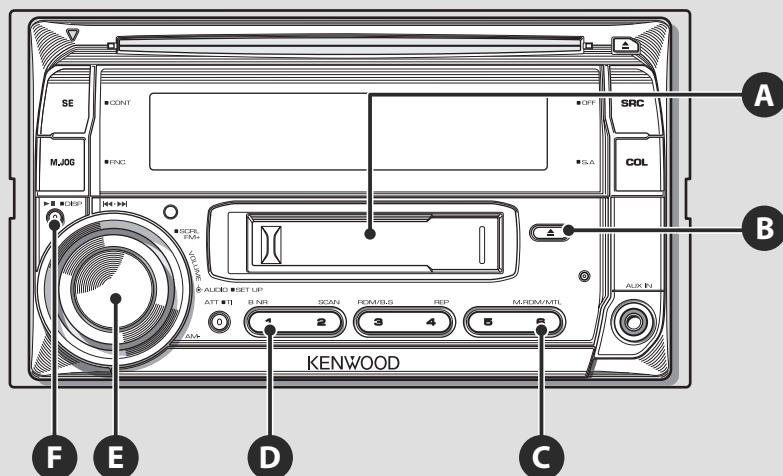
F

プレイする曲を選びます

コントロールノブ**F**を右側へ押すと、次の曲がプレイされます。

コントロールノブ**F**を左側へ押すと、プレイ中の曲の先頭/前の曲がプレイされます。

テープを聴く（DPX-40）

Ⓐ Ⓑ

テープをプレイします

テープ挿入口Ⓐにカセットテープを挿入すると、差し込んだカセットテープがプレイされます。

テープを取り出します

テープイジェクトキーⒷを押します。

- カセットが入っているときには ▭ インジケーターが点灯します。
- その他のいろいろなプレイ方法については、「Tape Listening (DPX-40)」（p21）をご覧ください。
- カセットテープは車のエンジンキーをオフにした後も、10分間は取り出すことができます。

Ⓕ

テープをリバースします

プレイポーズボタンⒻを押すたびに、カセットテープの再生面が切り替わります。

Ⓒ

テープポジションを選びます

キーを押すたびにメタルポジションとノーマルポジションに切り替わります。
メタルポジションのときは**MTL**インジケーターが点灯します。

- メタルテープ(TypeⅣ)、フェリクロムテープ(TypeⅢ)、およびクロムテープ(TypeⅡ)をプレイするときは、メタルポジションセレクターをオンにしてください。

Ⓔ

早送り/巻戻しします

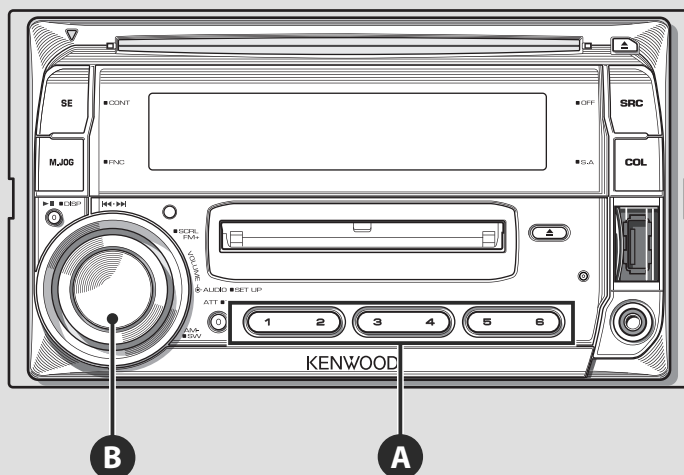
コントロールノブⒺを上側に押すと早送りし、下側へ押すと巻戻しします。
早送り/巻戻し中にプレイポーズボタンⒻを押すと、そこからプレイされます。

Ⓓ

ドルビーシステムを設定します

キーを押すたびにドルビーB NRシステムがオン/オフします。
オンのときは**B NR**インジケーターが点灯します。

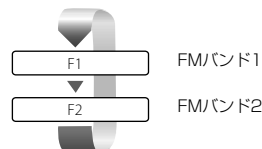
- ドルビーB　NRシステムを使用しているテープをプレイするときはオンにしてください。

ラジオを聴く

B

バンドを切り替えます

コントロールノブⒷの上側を押すと、受信バンドが次のように切り替わります。

FMバンド1

FMバンド2

コントロールノブⒷの下側を押すと、受信バンドが次のように切り替わります。

AMバンド1

AMバンド2

- ステレオ受信中は ST インジケーターが点灯します。

A

プリセット局を受信します

ボタンを押すと、押したボタンにメモリーされている放送局を選局します。

B

放送局を選択します

コントロールノブⒷの左右側を押すと、受信状態の良い放送局を自動的に受信します。

- チューニングモードによって、周波数を１ステップずつ変えたり、メモリーしている放送局を順に受信することができます。チューニングモードの設定は「ファンクション設定」(p28)の "Auto" 項目で行います。

A

放送局をプリセットします

２秒以上押すと、押したボタンに受信中の放送局がメモリーされます。

Music Disc & Audio File Listening

CDやオーディオファイル（CD-ROM/R/RWおよびUSBデバイス）を本機や別売品のディスクチェンジャーでいろいろな機能を使ってプレイできます。

● CDとオーディオファイルの基本的な聴きかた聴きかたは「ミュージックディスクやオーディオファイルを聴く」(p14)をご覧ください。

ランダムプレイ

プレイ中のCD、MD、またはフォルダ内の曲をランダムな順でプレイします。

▶ Disc RDM

押すたびに、ランダムプレイがオン/オフされます。

● MDのランダムプレイ中には、グループサーチはできません。

グループランダムプレイ（グループ登録済みMDのみ）

グループ登録済みMDのグループ内の曲をランダムな順でプレイします。

▶ GRP RDM

１秒押すたびに、グループランダムプレイがオン/オフされます。

● 「グループランダムプレイ」は「ファンクション設定」(p28)で "GRP" 項目が "On" のときに選択できます。

マガジンランダムプレイ（ディスクチェンジャーのみ）

ディスクチェンジャーにセットされているディスクの中の曲をランダムな順でプレイします。

▶ MGZM RDM

押すたびに、マガジンランダムプレイがオン/オフされます。

スキャンプレイ

ディスクやフォルダ、グループ内の各曲の先頭部分を10秒間ずつプレイして曲を探します。

1 スキャンプレイを開始します

▶ TRAC SCN

2 聴きたい曲のところで...

スキャンプレイが終了し、その曲からプレイされます。

● すべての曲がスキャンプレイされると、スキャンプレイは自動的に終了します。

リピートプレイ

現在聴いている曲またはディスク/フォルダ/グループ内の曲を繰り返しプレイします。

REP

押すたびに、次の順でオン/オフされます。

グループ登録済みMDプレイ中

表示	状態
TRAC REP	トラックリピートオン
GRP REP*	グループリピートオン
REP Off	リピートプレイオフ

* "GRP REP" は「ファンクション設定」(p28) で "GRP" 項目が "On" のときに選択できます。

CD/MDプレイ中

表示	状態
TRAC REP	トラックリピートオン
REP Off	リピートプレイオフ

オーディオファイルプレイ中

表示	状態
File REP	ファイルリピートオン
FOLD REP	フォルダリピートオン
REP Off	リピートプレイオフ

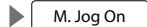
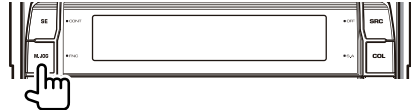
ディスクチェンジャープレイ中

表示	状態
TRAC REP	トラックリピートオン
Disc REP	ディスクリピートオン
REP Off	リピートプレイオフ

リストセレクト
(USB/CDのオーディオファイルプレイ時)

聴きたい曲をメディアのファイル構成を追って探します。

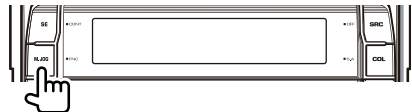
1 リストセレクトモードにします

M. Jog On

プレイ中の曲のファイル名が表示されます。

2 聴きたい曲を探してプレイします

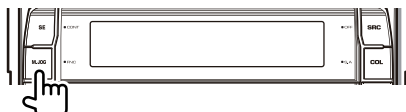
動作	操作
選択フォルダ/ファイルの移動	コントロールノブを回す。
フォルダ/ファイルの決定	コントロールノブを押す。
前のフォルダに戻る	コントロールノブを左に押す。
最初のフォルダ（ルート）に戻る	コントロールノブを左に1秒以上押す。

ファイル名が表示されているときは、"ENT"インジケーターが点滅します。

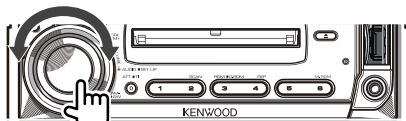
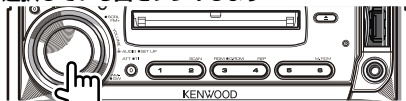
リストセレクトを中止するときは…

● ランダムプレイ中およびスキャンプレイ中は、リストセレクトは行えません。

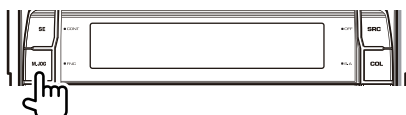
トラックセレクト
（音楽CDプレイ時）

聴きたい曲をコントロールノブを回して選択します。

1 トラックセレクトモードにします

▶ M. Jog On

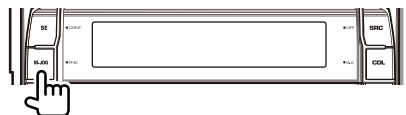
プレイ中のトラックナンバーが表示されます。

2 曲を選択します

3 選択している曲をプレイします

選択していた曲がプレイされます。

トラックセレクトを中止するときは…

- トラックセレクトは、内蔵CDプレーヤーでプレイ中のみ使用できます。
- ランダムプレイ中およびスキャンプレイ中は、トラックセレクトは行えません。
- コントロールノブを左に１秒以上押すと、１曲目のトラックに戻ります。

グループセレクト
（グループ登録済みMDプレイ時）

聴きたい曲をグループ構成を追って探します。

1 リストセレクトモードにします

▶ M. Jog On

プレイ中の曲の曲名が表示されます。

2 聴きたい曲を探してプレイします

動作	操作
グループ/曲の移動	コントロールノブを回す。
グループ/曲の決定	コントロールノブを押す。
前のグループに戻る	コントロールノブを左に押す。
最初のグループに戻る	コントロールノブを左に1秒以上押す。

グループセレクトを中止するときは…

- ランダムプレイ中およびスキャンプレイ中は、グループセレクトは行えません。

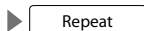
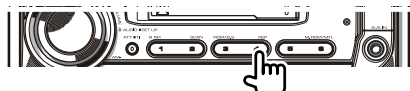
Tape Listening（DPX-40）

カセットテープをいろいろな機能を使ってプレイします。

● カセットテープの基本的な聴きかたは「テープを聴く（DPX-40）」（p16）をご覧ください。

リピートプレイ

現在の曲を繰り返しプレイします。

▶ Repeat

押すたびに、リピートプレイがオン/オフします。

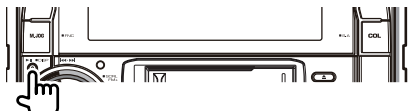
● リピートプレイするためには、曲間に4秒以上の無録音部分が必要です。

DPSS（ダイレクトプログラムサーチシステム）

先の曲や前の曲を飛び越し選曲します。

	DPSS+1	（次の曲）
▶	DPSS-0	（曲の先頭）
	DPSS-1	（前の曲）

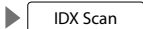
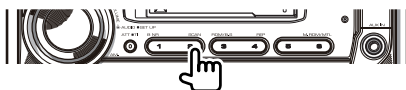
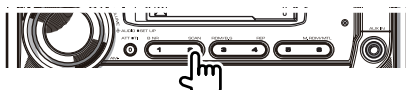
連続して動かすと、9曲まで飛び越し選曲できます。

途中で中止するときは

● DPSSプレイするためには、曲間に4秒間以上の無録音部分が必要です。

インデックススキャンプレイ

テープ内の各曲の先頭部分を10秒ずつプレイして曲を探すことができます。

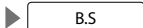
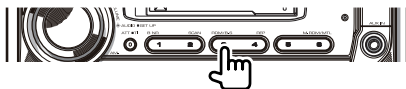
1 インデックススキャンプレイを開始します

▶ IDX Scan

2 聴きたい曲のところで…

インデックススキャンプレイが終了し、その曲からプレイされます。

● インデックススキャンプレイするためには、曲間に4秒以上の無録音部分が必要です。

ブランクスキップ

10秒以上続く無録音部分を早送りします。

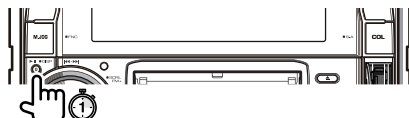
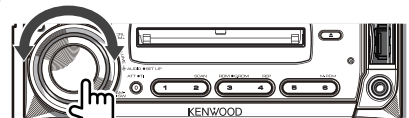
▶ B.S

押すたびに、ブランクスキップがオン/オフします。

Display Control

ディスプレイに表示する情報を設定をします。

ディスプレイ(時計)表示切り替え

ディスプレイに表示される情報を切り替えます。

1 ディスプレイモードにします

2 表示を選択します

次の順に切り替わります。

STANDBY、AUX、交通情報受信時

表示	設定内容
Graphic	グラフィック
SRC Name	ソースネーム
Clock	時計

FM/AM受信時

表示	設定内容
Graphic	グラフィック
FREQ	周波数
Clock	時計

CDプレイ時

表示	設定内容
P-Time	トラック演奏時間
T-Title	トラックタイトル
D-Title	ディスクタイトル
Graphic	グラフィック
Clock	時計

MDプレイ時(DPX-50MD/U60MD)

表示	設定内容
P-Time	トラック演奏時間
T-Title	トラックタイトル
G-Title	グループネーム（グループ登録済み MD）
D-Title	ディスクタイトル
Graphic	グラフィック
Clock	時計

オーディオファイルプレイ時

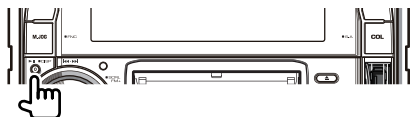
表示	設定内容
P-Time	ファイル演奏時間
File	ファイル名
Folder	フォルダ名
Album	アルバム名
Title	曲名＆アーティスト名
Graphic	グラフィック
Clock	時計

テーププレイ時(DPX-40)

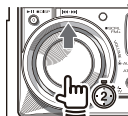
表示	設定内容
Counter	テープカウンター
Graphic	グラフィック
Clock	時計

ディスクチェンジャープレイ時

表示	設定内容
P-Time	トラック演奏時間
T-Title	トラックタイトル / トラックテキスト（対応機種を接続時のみ）
D-Title	ディスクタイトル / ディスクテキスト（対応機種を接続時のみ）
Graphic	グラフィック
Clock	時計

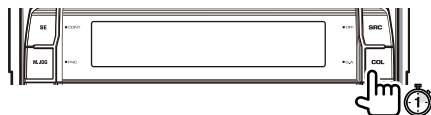
3 ディスプレイモードを終了します

- 時計表示に設定すると、すべてのソースで時計表示に設定されます。
- 選択した情報がない場合は、代替えの情報が表示されます。
- 曲の番号は3桁まで表示されます。
- "G-Title"は、ファンクション設定（p28）の"GRP"項目が"ON"になっているときに表示できます。

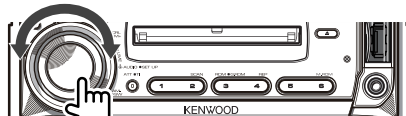
タイトル/テキストスクロール

タイトル/テキストをスクロールさせます。

- スクロールできるのは次のタイトル/テキストです。
  - ディスクタイトル/トラックタイトル
  - ディスクテキスト/トラックテキスト
  - フォルダ名
  - 曲名
  - アルバム名
  - グループ名
  - ファイル名
  - アーティスト名

スペアナ切り替え

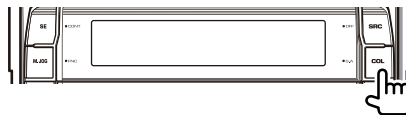
グラフィックに表示するスペアナ（スペクトラムアナライザー）表示を選択します。

1 スペアナ選択モードにします

- STANDBYモード中は切り替えできません。

2 スペアナを切り替えます

10種類のスペアナまたは“S.A Scan”（10種類のスペアナを次々に表示）から選択します。
スペアナ表示を消したい場合は“S.A Off”を選択します。

3 スペアナ選択モードを終了します

Display Control

：#秒押す

イルミネーションカラー設定

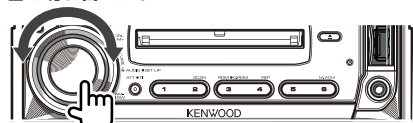
ディスプレイ、ボタン、およびコントロールノブのイルミネーション色を設定します。

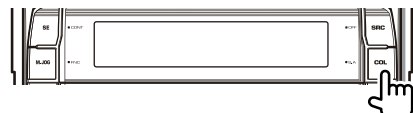
1 イルミネーションカラーモードにします

▶ Color

2 設定する場所を選びます

表示	設定場所
All	ディスプレイ、コントロールノブ、およびボタンの色を同時に設定します。
Display	ディスプレイの色を設定します。
Key	ボタンの色を設定します。
Rotary	コントロールノブの色を設定します。

3 色を切り替えます

10種類の既定色、“V.Scan”（10種類の既定色と“User”色をスキャン表示）、または“User”（「イルミネーションRGB調整」で調整した色）から選びます。

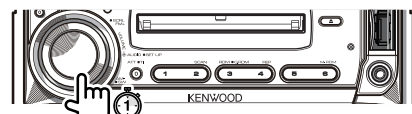
4 イルミネーションカラーモードを終了します

- 10色以外にRGB値を調整して、お好みの色にすることも可能です。「イルミネーションRGB調整」(p24)を参照してください。
- イルミネーションカラー調整は、「ファンクション設定」(p28)の“I-EFCT”を“2”に設定しているときは行えません。

イルミネーションRGB調整

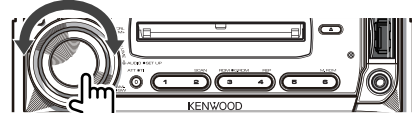
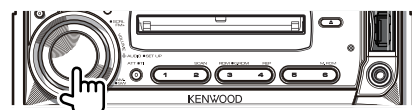
イルミネーション色をR(赤)G(緑)B(青)値で調整します。

1 RGB調整する場所を選びます

「イルミネーションカラー設定」(p24)の手順1～2を参照してください。

2 RGB調整モードにします

3 調整する色を選びます

点滅している色が調整できます。

4 色を調整します

5 RGB調整モードを終了します

- 調整して作成した色は、「イルミネーションカラー設定」で“User”を選択すると呼び出せます。
- イルミネーションRGB調整は、「ファンクション設定」(p28)の“I-EFCT”を“3”に設定しているときは行えません。
- イルミネーションRGB調整は、「ファンクション設定」(p28)の“I-EFCT”を“3”に設定しているときは行えません。

Audio Control

#：#秒押す

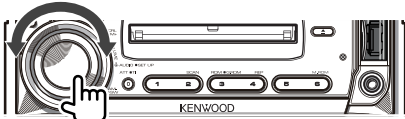
音響効果などを設定します。

SE（サウンドエンハンサー）設定

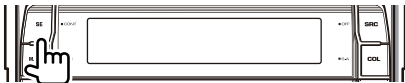
サウンドエンハンサーの設定を呼び出して、迫力のある重低音を付加したり、車内に立体的な音場を作り出します。

1 SEセレクトモードにします

▶ SE SEL

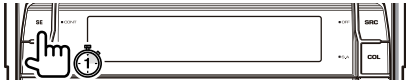
2 設定を選択します

次の順に切り替わります。

表示	設定	
SE Off（初期設定）	LV: Off	Bas: Off
SE Low	LV: Low	Bas: Low
SE High	LV: High	Bas: High
SE User	「SE詳細設定」（p25）での設定	

3 SEセレクトモードを終了します

SE詳細設定

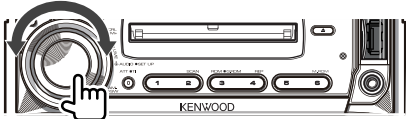
サウンドエンハンサーのユーザー設定を登録します。

1 SEコントロールモードにします

▶ SE CTRL

2 設定する項目を選択します

設定できる項目と値は次のとおりです。

表示	設定値
LV（奥行き感の設定）	Off/Low/High
Bas（低音部の強調設定）	Off/Low/High

3 値を選択します

4 SEコントロールモードを終了します

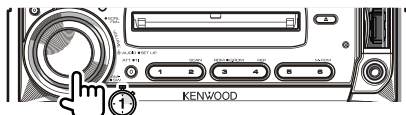
● ここで設定した値は、「SE設定」の"User"項目の値となります。

オーディオコントロール

オーディオコントロールでは次の項目を設定できます。

表示	設定内容
R-VOL	2ZONEがオンのとき、リア側の音量を調整します。(設定値：0～35)
SW L	サブウーファーの音量を調整します。(設定値：-15～+15)(DPX-U60MD/DPX-50MDのみ)
Natural/User/Rock/Vocal/Easy/Dance/Jazz	音楽に合わせてイコライザーカーブを設定します。設定に合わせてインジケーターが点灯します。
BasLV	低音域の音量を調整します。
MidLV	中音域の音量を調整します。
TreLV	高音域の音量を調整します。
BAL	左右の音量バランスを調整します。
FAD	前後の音量バランスを調整します。
(通常の表示)	

- 設定方法は「音質などを調整します」(p13)をご覧ください。
- "SW L"は、「ファンクション設定」(p28)で"SWPRE"が"SW"(サブウーファー)に設定され、さらに「サブウーファー出力コントロール」(p27)がオンに設定されているときに設定できます。

イコライザーカーブ設定中は効果の調整ができます。

表示	設定内容
Hi	イコライザー効果大
Lo	イコライザー効果小

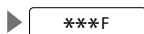
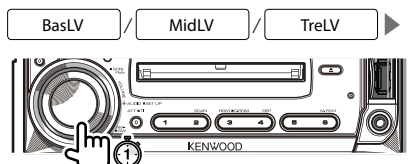
"Natural"および"User"に設定中は調整できません。

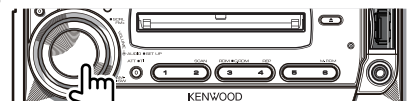
オーディオコントロールの詳細設定

低音、中音、高音を詳細に設定します。

1 詳細設定を開始します

BasLV / MidLV / TreLV ▶

▶ ***F

"***F"と表示されるまで押し続けます。

2 調整する項目を選びます

押すたびに、次の順に切り替わります。

"BasLV" で押したとき

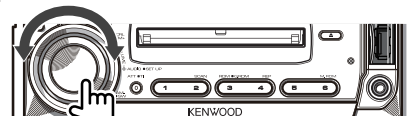
表示	設定内容
BasF	調整する低音域の中心周波数
BasQ	低音クオリティーファクター
B EX	低音中心周波数伸張

"MidLV" で押したとき

表示	設定内容
MidF	調整する中音域の中心周波数
MidQ	中音クオリティーファクター

"TreLV" で押したとき

表示	設定内容
TreF	調整する高音域の中心周波数

3 各項目を調整します

各項目の設定範囲は次のとおりです。

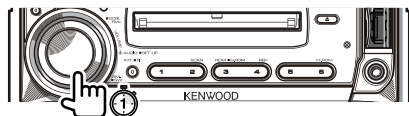
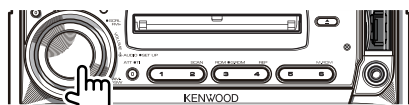
項目	設定範囲
BasF	40/50/60/70/80/100/120/150 (Hz)
BasQ	1.00/1.25/1.50/2.00
B EX	On/Off
MidF	500/1.0k/1.5k/2.0k (Hz)
MidQ	1.0/2.0
TreF	10.0/12.5/15.0/17.5 (kHz)

4 **詳細設定を終了します**

- 各調整項目については「Help?　Term」(p36)をご覧ください。

オーディオセットアップ

音量オフセットやデュアルゾーン機能などを設定します。

1 **オーディオセットアップを開始します**

2 **設定する項目を選びます**

押すたびに、次の順に切り替わります。

項目	設定内容
HPF	フロントのハイパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。
HPR	リアのハイパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。
LPF	ローパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。
PHAS	サブウーファーの位相を設定します。
V-Off	各ソースごとの、音量の差を調整します。
2ZON	デュアルゾーン機能のオン/オフを設定します。

- “V-Off”でソースごとに音量オフセットを設定しておくと、ソースを切り替えてもほぼ同じ音量で聴くことができます。
- “LPF”および“PHAS”は、ファンクション設定で“SWPRE”が“SW”（サブウーファー）に設定されているときに設定できます。“SWPRE”の設定については「ファンクション設定」(p28) をご覧ください。
- “PHAS”は“LPF”が“THRU”に設定されているときは設定できません。
- "2ZON"を"On"に設定すると、"HPF"、"HPR"、"LPF"、および"PHAS"は設定できません。

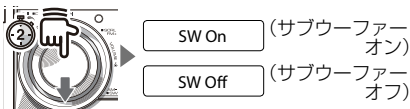
3 **各項目を設定します**

各項目の設定範囲は次のとおりです。

項目	設定範囲
HPF/HPR	THRU(フィルターオフ)/40/60/80/100/120/150/180/220(Hz)
LPF	50/60/80/100/120(Hz)/THRU(フィルターオフ)
PHAS	Reverse(180°)/Normal(0°)
V-Off	0 ～ −8 (AUX : +8 ～ −8)
2ZON	On/Off

4 **オーディオセットアップを終了します**

サブウーファー出力コントロール

サブウーファー出力のオン/オフを設定します。

“SW On”または“SW Off”が表示されるまで押し続けます。

- サブーウーファーのオン/オフは、ファンクション設定の“SWPRE”項目が“SW”（サブウーファー）に設定されているときに設定できます。

Function Control

各種の機能を設定します。

ファンクション設定

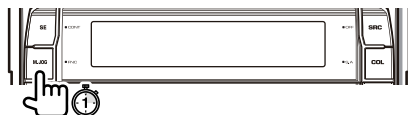
以下の機能の設定をします。

表示	設定	設定概要	ソース
Code Set/ CLR	p30/p31 参照	セキュリティコードを設定／解除します。	SB
BEEP	On*/Off	操作音のオン／オフを設定します。	SB
CLK ADJ	p29参照	時刻を設定します。	SB
DSI	On*/Off	セキュリティインジケーターのオン／オフを設定します。	SB
CONT	1～11	ディスプレイのコントラストを設定します。	SB
SWPRE	SW/R*	プリアウトの出力を設定します。(DPX-50MD/ DPX-U60MDのみ)	SB
AMP	On*/Off	本機の内蔵アンプのオン／オフを設定します。(DPX-50MD/ DPX-U60MDのみ)	SB
Zone2	F/R*	デュアルゾーン機能オン時のAUX入力音声の出力先を設定します。	SB以外
SPRM	On*/Off	Supreme機能のオン／オフを設定します。	AF
Auto	Auto1*/ Auto2/ Manual	チューニングモードを設定します。	Tuner
A-Memory	p29参照	放送局を自動的にプリセットします。	Tuner
MONO	Off*/On	モノラルで受信します。	FM
Name Set	p32参照	AUXネームを設定します。	AUX
SCL	Auto*/ MANU	テキストスクロールを設定します。	
GUID	ATT/Off*	接続されているナビの音声ガイドの出力を設定します。	SB
AUX	Off/On*	ソース選択時に内蔵AUXを表示するか設定します。	SB
CD Read	1*/2	CDの読み取りモードを設定します。	SB
GRP	On/Off*	MDグループの管理機能のオン／オフを設定します。(DPX-50MD/U60MDのみ)	SB
DEMO	On*/Off	デモンストレーション表示のオン／オフを設定します。	
I-EFCT	0/1*/2/3	イルミネーションの演出効果を設定します。	

* お買い上げ時の設定状態を示します。
SB：スタンバイ中に設定できます。
SB以外：スタンバイ以外のときに設定できます。
Tuner：Tunerソース中に設定できます。
CD：CD/オーディオファイルソース中に設定できます。
AF：USB/CDのオーディオファイルソース中に設定できます。
AUX：AUXソース中に設定できます。
FM：FMを受信中に設定できます。
ソース欄が空欄の場合は、すべてのソース中に設定できます。

1 ソースを切り替えます

表示される項目は、ソースによって異なります。ソース欄を参照してください。

2 ファンクションセットモードにします

▶ Function

3 設定する項目を選択します

4 **各項目を設定します**

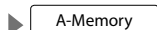
- 参照ページ番号が記載されている項目の設定方法は、それぞれのページをご覧ください。手順4以降の操作方法が異なります。
- 各項目の詳細については、「Help? Term」（p36）をご覧ください。
- “Zone2” は、「オーディオセットアップ」（p27）の、“2 ZON” が “ON” に設定されているときに表示されます。
- セキュリティコードが設定されているときは、“CODE SET” のかわりに “Code CLR”（セキュリティコード消去）が表示されます。

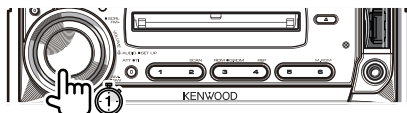
5 **ファンクションセットモードを終了します**

オートメモリー

受信状態の良い放送局を自動的に選んでメモリーします。

1 **オートメモリー項目を選択します**

▶ A-Memory

設定項目の選択のしかたは「ファンクション設定」（p28）を参照してください。

2 **オートメモリーを開始します**

周波数表示が次々と変わるまで押し続けます。

- 6局メモリーするか、周波数を1周すると自動的にオートメモリーは終了します。

時刻合わせ

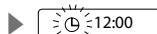
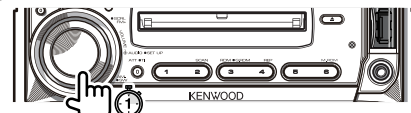
本機の時計を合わせます。

1 **時刻合わせの項目を選択します**

▶ CLK ADJ

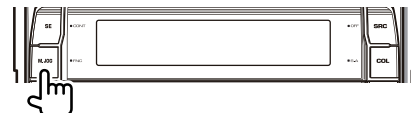
設定項目の選択のしかたは「ファンクション設定」（p28）を参照してください。

2 **時刻合わせを開始します**

▶ 12:00

時計表示になるまで押し続けます。

3 **“時” を調整します**

4 **“分” を調整します**

5 **時刻合わせを終了します**

ファンクション設定の項目選択に戻ります。

- “分” を調整したときには、時計合わせ終了時に00秒からスタートします。

Function Control

セキュリティコードの設定

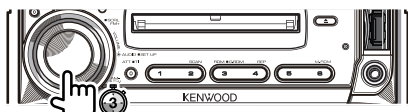
暗証番号を設定して、盗難を抑制します。

- 設定したセキュリティコードの変更・解除には、セキュリティコードが必要です。セキュリティコードは必ずメモしておくことをお勧めします。

1 セキュリティコードセットの項目を選択します

▶ Code Set

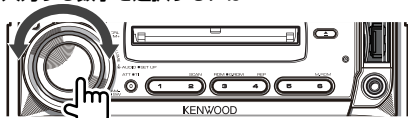
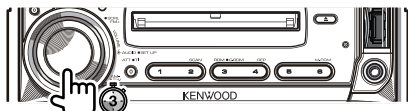
設定項目の選択のしかたは「ファンクション設定」（p28）を参照してください。

2 セキュリティコードセットを開始します

▶ Enter ▶ Code – – – –

"Enter"と表示されるまで押し続けます。

3 セキュリティコードを入力します

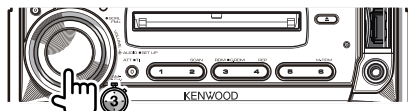
入力する桁を選択するには

入力する数字を選択するには

4 決定します

▶ RE-Enter ▶ Code – – – –

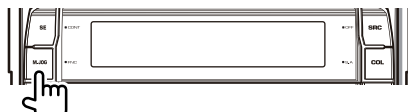
"RE-Enter"と表示されるまで押し続けます。

5 もう一度入力します

手順３と同じ方法で、同じセキュリティコードを入力します。

6 決定します

▶ Approved

"Approved"と表示されるまで押し続けます。

7 セキュリティコードセットを終了します

- 手順５で入力したセキュリティコードが手順３で入力したセキュリティコードと異なる場合は、手順３からやりなおすことになります。
- セキュリティコードが設定されると、リセットボタンを押したときやバッテリーの接続を切った場合にセキュリティコードの入力が必要となります。詳しくは、「セキュリティコードの入力」（p31）をご覧ください。
- セキュリティコードの設定は、スタンバイモードで操作してください。

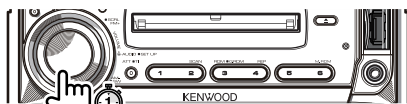
セキュリティコードのクリア

セキュリティコードの設定を解除します。

1 セキュリティコードクリアの項目を選択します

▶ Code CLR

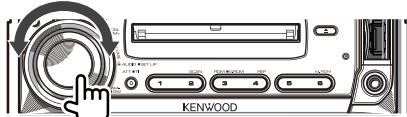
設定項目の選択のしかたは「ファンクション設定」（p28）を参照してください。

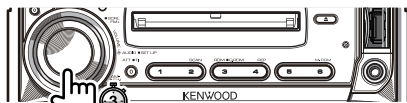
2 セキュリティコードクリアを開始します

▶ Enter ▶ Code – – – –

"Enter"と表示されるまで押し続けます。

3 セキュリティコードを入力します

入力する桁を選択するには

入力する数字を選択するには

「セキュリティコードの設定」（p30）で設定したセキュリティコードを入力します。

4 決定します

▶ Clear

"Clear"と表示されるまで押し続けます。

5 セキュリティコードクリアを終了します

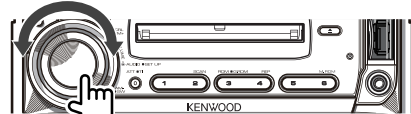
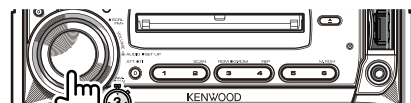
- 入力したセキュリティコードが間違っていると、手順３の操作に戻ります。正しいコードを入力しなおしてください。

セキュリティコードの入力

セキュリティコードが設定されている場合、リセットボタンを押した後や本機をバッテリーから外した後で初めて使うときには、電源をオンにするためにセキュリティコードを入力する必要があります。

1 セキュリティコードを入力します

入力する桁を選択するには

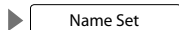
入力する数字を選択するには

2 決定します

▶ Approved

"Approved"と表示されるまで押し続けます。

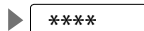
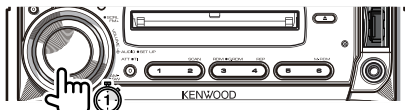
- 入力したセキュリティコードが間違っていると、電源がオフになります。
  このようなときは、[SRC] キーを押して電源をオンにしてから再度セキュリティコードを入力しなおしてください。
- 本機はセキュリティコード機能の他にDSI（セキュリティインジケーター）機能を採用しています。「ファンクション設定」（p28）の"DSI"項目を"On"にしておくと、ACCをオフにしたときにLEDが点滅し、盗難防止警告ランプの代用として使用できます。

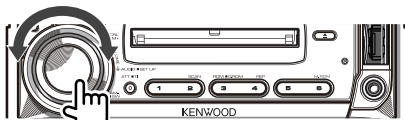
AUXネームセレクト

ソースをAUXに切り替えたときに表示される名前（AUXネーム）を設定します。

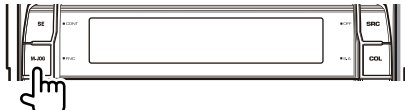
1 AUXネームセットの項目を選択します

設定項目の選択のしかたは「ファンクション設定」（p28）を参照してください。

2 AUXネーム選択を開始します

▶ ****

現在設定しているAUXネームが表示されます。

3 名前を選びます

次の順で名前が表示されます。

表示
TV
VIDEO
GAME
PORTABLE
DVD
AUX/AUX EXT

4 AUXネーム選択を終了します

ファンクション設定の項目選択に戻ります。

- 10秒以上何も操作しないと、AUXネーム選択は自動的に終了します。
- AUXネームを設定できるのは、内蔵AUXまたは別売品のKCA-S220Aを使用した外部AUXのみです。

オーディオファイル

本機では、以下のオーディオファイルがプレイできます。

プレイできるオーディオファイル
AAC-LC (.m4a), MP3 (.mp3), WMA (.wma)

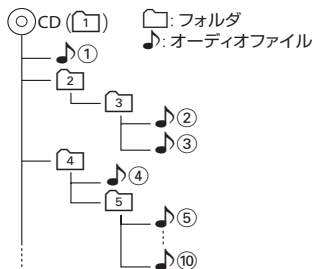
プレイできるディスクメディア
CD-R, CD-RW, CD-ROM

プレイできるディスクフォーマット
ISO 9660 Level 1/2, Joliet, Romeo, Long file name

プレイできるUSBデバイス（DPX-U60MDのみ）
USB マスストレージクラス

プレイできるUSBデバイスファイルフォーマット
FAT16, FAT32

上記の規格に準拠したオーディオファイルであっても、メディアやデバイスの種類やコンディションにより正常にプレイできない場合があります。

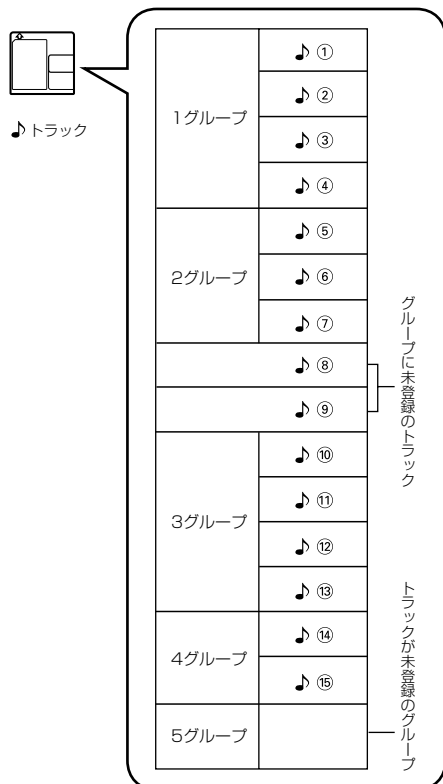
オーディオファイルのプレイする順番
下記のようなフォルダ・ファイル階層のメディアでは ① から ⑩ の順にプレイされます。

オーディオファイルに関するオンラインマニュアルを、**www.kenwood.com/audiofile/** で公開しています。オンラインマニュアルには、本書に記載されていない詳しい情報や注意事項が掲載されています。本書とあわせて必ずお読みください。

- USBデバイスやiPodを接続して本機の電源をオンにすると、接続している機器の充電ができます。
- USBハブやマルチカードリーダーを介してUSBデバイスを認識させることはできません。

MD Group

本機では、グループ化されたMD（グループ登録済みMD）からグループを選んで、聴きたい曲をすばやく選べるグループ管理機能を搭載しています。

最大再生可能グループ数
本機で再生できるグループ数は 50 番目までです。51 番目以降に登録されているグループは再生できません。

グループ登録された曲を再生する順番
下記のようなグループで作成されたMDでトラックサーチ、グループサーチ、およびグループセレクトを行った場合は次のようになります。
なお、MDグループ管理機能は「ファンクション設定」（p28）の“GRP”項目を“On”に設定しているときに使用できます。

- MDグループ管理機能を“On”に設定していると、グループに登録していないトラックは再生されません。グループ管理機能を“Off”に設定すると、すべての曲を聴くことができます。
- トラックが登録されていないグループは、グループサーチやグループセレクトでは選択できません。

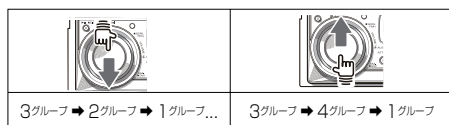
♪⑥再生中にトラックサーチを行うと...

♪⑥ の先頭➡♪⑤ ➡♪④	♪⑦ ➡♪⑩ ➡♪⑪...

♪⑩再生中にグループサーチを行うと...

3グループ ➡ 2グループ ➡ 1グループ...	3グループ ➡ 4グループ ➡ 1グループ

♪⑩再生中にグループセレクトを行うと...

4グループ ➡ 3グループ	1グループ ➡ 2グループ ➡ 3グループ

- グループセレクトは常に1グループ目を基準にして開始されます。
  上記の説明は、説明の都合上、コントロールノブを下に2回押して3グループ目を選択してからの操作例を示してあります。
- MDの作成方法はグループ機能を搭載した編集機などの取扱説明書をご覧ください。

Troubleshooting

? 操作スイッチを押しても動作しない

✔ システムに異常が発生している。
☛ リセットボタンを押してください(p8)。

? チューナーの感度が悪い

✔ 自動車のアンテナが伸びていない。
☛ アンテナを十分に伸ばしてください。

✔ アンテナコントロール電源が接続されていない。
☛ 「接続」(p42)を参照して正しく接続し直してください。

? ディスクが取り出せない

✔ ディスクが排出の途中で止まっている。
☛ ディスクが完全に排出されるまでイジェクトキーを押し続けてください。

? CDやオーディオファイルをプレイできない

✔ ディスクが異常に汚れている。
☛ 「使用上のご注意」(p8)を見て、ディスクをクリーニングしてください。

? オーディオファイルをプレイ中に音飛びする

✔ ディスクに傷や汚れがある。
☛ 「使用上のご注意」(p8)を見て、ディスクをクリーニングしてください。

✔ ディスク作成時の問題。
☛ ディスクを作成し直すか、ほかのディスクを使用してください。

? フォルダサーチをすると雑音が出る

✔ オーディオファイルが入っていないフォルダが連続して存在すると雑音が出る場合があります。。
☛ オーディオファイルが入っていないフォルダを作成しないでください。

? テープでDPSS、リピート、インデックススキャンできない、目的の位置で止まらない

✔ 曲間の無録音部分が短すぎる。
☛ 曲間に無録音部分を4秒以上入れてください。

? 曲の途中で早送りされる

✔ 録音レベルの低い部分が10秒以上ある。
☛ ブランクスキップをオフにしてください（p21）。

? ブランクスキップされない

✔ 無録音部分の雑音が大きい。
☛ 雑音が小さくなるように録音してください。

共通

AAC（エーエーシー）

正式名「Advanced Audio Coding」の略称です。
デジタル放送などに使用されている画像圧縮方法のオーディオ部分のみの圧縮規格です。
本書ではこの方式を使用したオーディオファイルを指す場合もあります。使用できる AAC 収録メディアの種類やフォーマットなどは「オーディオファイル」(p34) をご覧ください。

MDLP（エムディーエルピー）

MD の記録方式の規格です。本機では MDLP2 モードと MDLP4 モードで録音された MD をプレイできます。

MP3（エムピースリー）

正式名「MPEG Audio Layer 3」の略称です。MPEG Audio は DVD や Video CD などに使用されている画像圧縮方法のオーディオ部分のみの圧縮規格です。
本書ではこの方式を使用したオーディオファイルを指す場合もあります。
使用できる MP3 収録メディアの種類やフォーマットなどは「オーディオファイル」（p34）をご覧ください。

WMA（Windows Media™ Audio）

米国マイクロソフト社が開発した音声圧縮符号化方式「Windows Media™ Audio」の略称です。
本書ではこの方式を使用したオーディオファイルを指す場合もあります。
使用できる WMA 収録メディアの種類やフォーマットなどは「オーディオファイル」（p34）をご覧ください。

ディスクチェンジャー

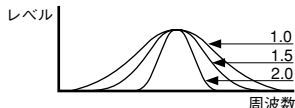
外部接続された別売品の CD チェンジャー（KDC-C520、KDC-C510、KDC-C406 など）、マルチメディアプレーヤー（VD-C77）です。

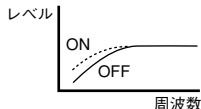
オーディオコントロール

BasF/MidF/TreF（バスフリケンシィ/ミドルフリケンシィ/トレブルフリケンシィ）

低音、中音、高音を調整する周波数（中心周波数）を設定します。

BasQ/MidQ（バスクォリティーファクタ/ミドルクォリティーファクタ）

低音と中音の調整スロープを設定します。値が大きくなるほどスロープの傾斜が急になります。

B EX（バスエキステンデッド）

"ON"に設定すると、低音中心周波数を低域側に約20%伸びた状態にします。

HPF（ハイパスフィルター）

設定された周波数（カットオフ周波数）よりも低い成分をカットします。
プリアウトをサブウーファーように使用するときに、この機能を使って、出力から低域成分をカットして高域のみの音にします。
"THRU"に設定すると、この機能をオフにできます。
本機では、ハイパスフィルターをフロントスピーカー（HPF）とリアスピーカー（HPR）に独立して設定できます。

LPF（ローパスフィルター）

設定された周波数（カットオフ周波数）よりも高い成分をカットします。
プリアウトをサブウーファー用に使用するときに、この機能を使って、出力から高域成分をカットして低域のみの音にします。
"THRU"に設定すると、この機能をオフにできます。

PHAS（サブウーファーフェイズ）
サブウーファーの位相（正相 / 逆相）を設定します。

V-Off（ボリュームオフセット）
各ソースごとの音量の差を調整します。
これにより、ソースを切り替えても、ほぼ同じ音量で聴くことができます。

2ZON（デュアルゾーン）
デュアルゾーン機能とは、メインソースとサブソース（AUX 入力）をフロントスピーカーとリアスピーカーに振り分けて出力する機能です。この機能のオン / オフを設定します。

Function

Zone2（ゾーン2）
デュアルゾーン機能がオンのときのサブソース（AUX入力）の出力先（フロントスピーカーまたはリアスピーカー）を設定します。

MONO（モノラル）
この機能で FM ステレオ放送をモノラル音声にすることができます。
受信状態の悪い FM 放送局を聴いているときに、音声をモノラルにすると雑音が軽減されて聞き易くなるときがあります。

SCL（スクロール）
ディスプレイに曲名などを表示しているとき、文字数が多いため表示しきれない場合にスクロールして表示する機能です。
この機能を“Auto”に設定しておくとスクロール表示を繰り返し行い、“MANU”に設定しておくと表示が変わったときだけ1回スクロール表示するようにできます。

Auto（チューニングモード）
放送局の探し方を設定することができます。
Auto 1: 放送局を自動的に見つけ出します。
Auto 2: メモリーされている放送局を順番に受信します。
Manual: 1 ステップずつ周波数が変わります。

A-Memory（オートメモリ）
受信状態の良い放送局を自動的にプリセットキーにメモリーします。

SPRM（サプリーム）
低いビットレート（128Kbps以下、サンプリング周波数は 44.1kHz）でエンコードしたときに欠落してしまった高音域を、独自のアルゴリズムにより推定・補完する技術です。補完は圧縮フォーマット（AAC、MP3、または WMA）別に最適化され、ビットレートに合わせて処理されます。
高いビットレートでエンコードされている曲や可変ビットレートでエンコードされている曲、高域の音が少ない曲では効果が表れ難い場合があります。

BEEP（ビープ）
キーを押したときに、押されたことが確認できるように“ピッ”音がする機能です。押してすぐ離したときには“ピッ”と鳴り、1秒以上または2秒以上押して機能をオンにしたときには“ピッピッ”と鳴ります。うるさく感じたときには“Off”に設定することにより消すことができます。
なお、ビープ音はプリアウトからは出力されません。

CONT（コントラスト）
ディスプレイのコントラストを調整します。
取り付け位置によってはディスプレイの文字が見えにくい場合があります。このようなときに調整してください。

SWPRE（スイッチングプリアウト）
プリアウトをリア用出力（“R”）またはサブウーファー用出力（“SW”）に切り替えます。（DPX-50MD/DPX-U60MDのみ）

GRP（グループ）
MD グループ管理機能をオン / オフします。
この機能をオンにすると、グループ登録済み MD をプレイしているときに、グループサーチ、グループリピート、グループランダムプレイ、およびグループセレクト機能を使用できます。
ただし、この機能がオンのときには、グループに登録されていない曲はプレイできません。そのような曲をプレイするときには、この機能をオフにしてください。

I-EFCT（イルミネーションエフェクト）
イルミネーション色の演出効果を設定します。
0 : 演出しません。
1 : 操作をするとイルミネーションが変化します。
2 : プレイ中の曲の音に連動して、イルミネーションの色が変化します。
3 : プレイ中の曲の音に連動して、イルミネーションの明るさが変化します。

AMP（内蔵アンプ出力）(DPX-U60MD/ DPX-50MDのみ)

内蔵アンプの出力をオン/オフします。
フロントスピーカー、リアスピーカーともプリアウト端子にパワーアンプを接続してシステムを組んでいるようなときは、この機能を“ OFF ”に設定することにより、内蔵アンプの稼働を停止させることができます。
内蔵アンプの稼働を停止させると、プリアウトからの音声出力のクオリティーをアップさせることができます。

GUID（ナビガイド）

カーナビゲーションの音声ガイド時の本機の動作を設定することができます。
“ATT”に設定すると、ナビ音声ガイド時にオーディオの音が小さくなります。
この機能を使用する場合は、本機とナビゲーションシステムのラインミュート端子またはミュート端子を接続してください。
ケンウッド製カーナビゲーションシステムを接続してこの機能を使用する場合は、ナビゲーションシステムの「オーディオATT」機能をオンに設定してください。また、2001年以前に発売のケンウッド製ナビゲーションシステムを接続している場合は「音声割り込み」機能もオンに設定してください。
なお、この機能は 1997 年以前に発売のケンウッド製ナビゲーションシステムやケンウッド製以外のカーナビゲーションで使用すると正常に動作しない場合があります。

CD READ（CDリード）

CDの読み込み方法を設定します。
特殊なフォーマットのCDをプレイ時に、正常にプレイができない場合に“2”を設定すると強制的にCDをプレイすることができる機能です。なお、“2”に設定しても、音楽CDによってはプレイできない場合があります。また、“2”に設定するとオーディオファイルのプレイはできなくなります。通常は“1”でお使いください。

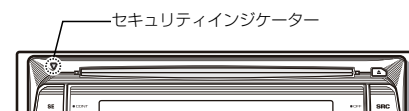
1：ディスクのプレイ時にオーディオファイルのディスクと音楽 CD を自動的に識別します。
2：音楽 CD として強制的にプレイします。

Code Set（コードセット）/Code CLR（コードクリア）

セキュリティコードを設定 / 解除します。
セキュリティコードを設定しておくと、本機の電源コードを外したときやリセットボタンを押したときなどの、次に初めて使うときは、設定したセキュリティコードを入力しないと電源がオンできないようになります。すなわち､本機を車両から外したときは、セキュリティコードの入力が必要になるため、盗難防止の手助けとなります。

DSI（セキュリティインジケーター）

セキュリティインジケータをオン / オフします。
セキュリティインジケーターとは、本機の電源がオフのときに盗難防止警告ランプのように点滅する LED です。

セキュリティインジケーター

無効な操作を以下のように表示してお知らせします。

Error 04：
- ディスクが異常に汚れています。
- ディスクに傷が多く付いています。
- ディスクが裏返しになっています。

Error 05：
ディスクが裏返しです。

E-12：
プレイしようとした MD はデータ用 MD です。

No Track：
プレイしようとした MD には何も録音されていません。

Blank：
プレイしようとした MD にはデータが 1 つも記録されていません。

NA File：
サポートされていないフォーマットのオーディオファイルをプレイしようとしました。

Copy PRO：
プレイしようとしたオーディオファイルは、コピープロテクトされています。

システムの状態を以下のように表示してお知らせします。

Error 77：
何らかの原因で正常に動作していない。
➡ 本機のリセットボタンを押してください。"Error 77" の表示が消えない場合、お近くのケンウッドサービス窓口へご相談ください。

Hold：
本機の MD プレーヤーやディスクチェンジャーの内部温度が 60℃以上になると保護回路が働き、動作しなくなることがあります。このときこの表示が出ます。
➡ 本機またはディスクチェンジャーの取り付け場所の温度を下げてから使用してください。

E-99：
何らかの原因で正常に動作していない。
➡ イジェクトキーを押してください。イジェクトキーを押しても表示が消えないときは本機のリセットボタンを押してください。なお、表示が消えない場合、お近くのケンウッドサービス窓口へご相談ください。

インジケーターが点滅：
CD プレーヤーが正常に動作していない。
➡ CD を取り出してから、CD を入れなおしてください。

インジケーターが点滅：
演奏しようとした MD に何も録音されていない。
➡ 録音された MD に入れ替えてください。
MD プレーヤーが正常に動作していない。
➡ MD を取り出してから、MD を入れなおしてください。
カセットプレーヤーが正常に動作していない。
➡ カセットテープを取り出してから、カセットテープを入れなおしてください。

Protect：
スピーカーコードがショートまたは車両のシャーシーに接触したために、保護回路が働きました。
➡ スピーカーコードを適切に配線 / 絶縁しなおしてから、リセットボタンを押してください。

TOC ERR：
CD が異常に汚れている、裏返しで入っている、または CD に傷が多く付いている。
➡ CD をきれいにし、正しい向きで入れなおしてください。

No Dvice：
USB デバイスが接続されていないときに USB ソースにした。
➡ USB デバイスを接続し、再び USB ソースにしてください。

NA Dvice：
サポートされていない USB デバイスを接続した。
➡ リムーブモードにしないで取り外してください。サポートされているUSBデバイスについては「オーディオファイル」（p34）を参照してください。

No Music：
接続されている USB デバイスには、プレイできるフォーマットのオーディオファイルがありません。

USB ERR（点滅）：
接続されている USB デバイスに不具合が発生した可能性があります。
➡ USB デバイスを取り外し、電源を入れなおしてください。

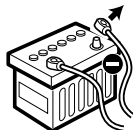
取り付け時のご注意

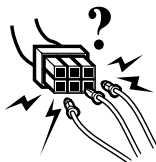
⚠警告

禁 止

大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車で使用しないでください。火災などの原因となります。本製品はDC12V⊖アース車専用です。

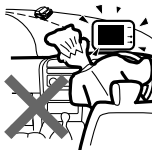
実 施

配線作業中は、バッテリーの⊖端子を外してから行ってください。ショート事故による感電やケガの原因となります。

実 施

配本製品の配線は必ず、取扱説明書に記載してある通りに行ってください。配線を間違えますと、火災、その他の事故の原因となります。

禁 止

コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対にお止めください。リード線の電流容量をオーバーし、火災・感電の原因となります。

禁 止

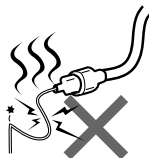
本製品を前方の視界を妨げる場所や、運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けないでください。交通事故やケガの原因となります。

実 施

本製品を取り付けの際には、必ず付属の取付用部品をご使用ください。取付用付属品をご使用にならないと、製品内部を壊し、ショート事故による火災が起こるおそれがあります。
また、取り付け不備により運転中に製品が外れて人に当たるなど、ケガの原因となります。

禁 止

アースコードを、ステアリング部やブレーキライン系統などの重要保安部品のボルトやナットに取り付けないでください。事故などの原因となります。

禁 止

車両電源配線用コード以外で延長しないでください。
コードの被覆が破れやすく、ショート・発熱事故による火災が起こるおそれがあります。また、電流容量オーバーにより、火災が起こるおそれがあります。

実 施

車両の板金部の近くを通るコードには、保護用テープを巻いてください。
コードが切れると、ショート事故により、火災となるおそれがあります。

実 施

バッテリー電源（黄）を接続する車両側電源のヒューズ容量が、本機のヒューズ容量（10A）以上であることを確認してください。
また、別売品のパワーアンプなどを接続する場合は、それらと本機との総ヒューズ容量が車両側のヒューズ容量以下であることを確認してください。もし、超える場合には、バッテリーから直接電源を取ってください。
車両側のヒューズ容量を超える電源を接続すると、リード線の電流容量オーバーにより、火災などの事故の原因となります。

実 施

電源端子およびスピーカー端子のカバーが、端子の先端より長い場合は、接続が不完全になる場合があります。このような場合は、カバーの長さを端子の長さと同じになるように切り取ってください。

注 意

車体に穴を開けて取り付ける際は、パイプ類・タンク・電気配線などの位置を確認のうえ、これらと当たったり接触することがないようにしてください。火災の原因になります。

実 施

本製品の取り付け終了後に、車のブレーキランプ、ヘッドランプ、ウィンカー、ワイパーなどが正常に動作することを確認してください。正常に動作しない場合は、正常に動作するように取り付けをやり直してください。

注 意

本製品、または車両のヒューズが切れたときは、コードがショートしていないことを確認後、必ずヒューズに表示されている容量（アンペア数）の新しいヒューズと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用しますと、火災の原因になります。

実 施

事故防止のため、電池やネジなどの小物類は幼児の手の届かないところに保管してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

注 意

本製品を使用直後は、本体の背面や側面などの金属部分が熱くなっています。直接触ることはお止めください。火傷をする場合があります。

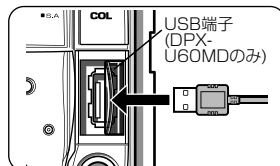
接続

実 施

初めにエンジンキーが抜かれていることを確認後、ショート事故防止のため必ずバッテリーの⊖端子を外してください。

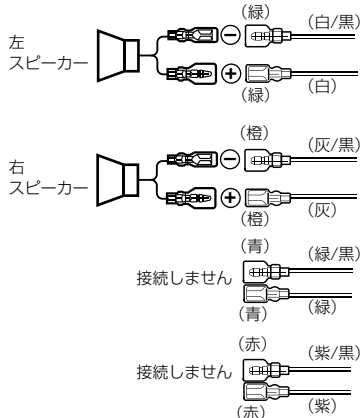
1. エンジンキーを抜きます。
2. 各セットの入・出力コードを確かめて接続します。
3. 電源ハーネスのスピーカーコードを接続します。
4. 電源ハーネスをアースコード（黒）、バッテリー電源コード（黄）、アクセサリー電源コード（赤）の順に接続します。
5. 電源ハーネスのコネクターを本機に接続します。
6. 取り付け終了後に、バッテリーの⊖端子を接続します。
7. 電源をオンします。
8. 本機のリセットボタン（p8）を押します。

注 意

ヒューズが切れたときは、コードがショートしていないことを確認後、**ヒューズに表示されている容量（アンペア数）の新しいヒューズと交換してください。**規定容量以外のヒューズを使用すると、火災の原因になります。

USBデバイス（市販品） USBケーブル（別売品）

使用するUSBケーブルにはCA-U1EX（別売品）をお薦めします。

注 意

- スピーカーコードの⊕⊖端子を車のシャーシなどに接触させないでください。
- 複数のスピーカーコードの⊖端子を共通にして接続しないでください。

注 意

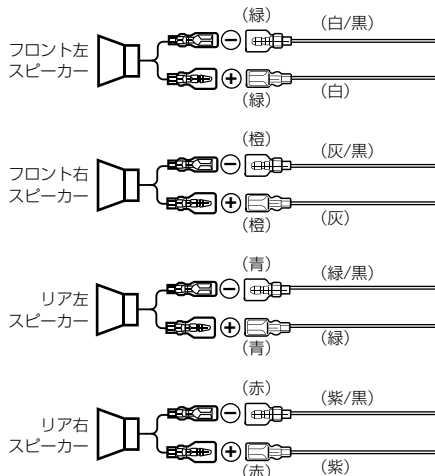
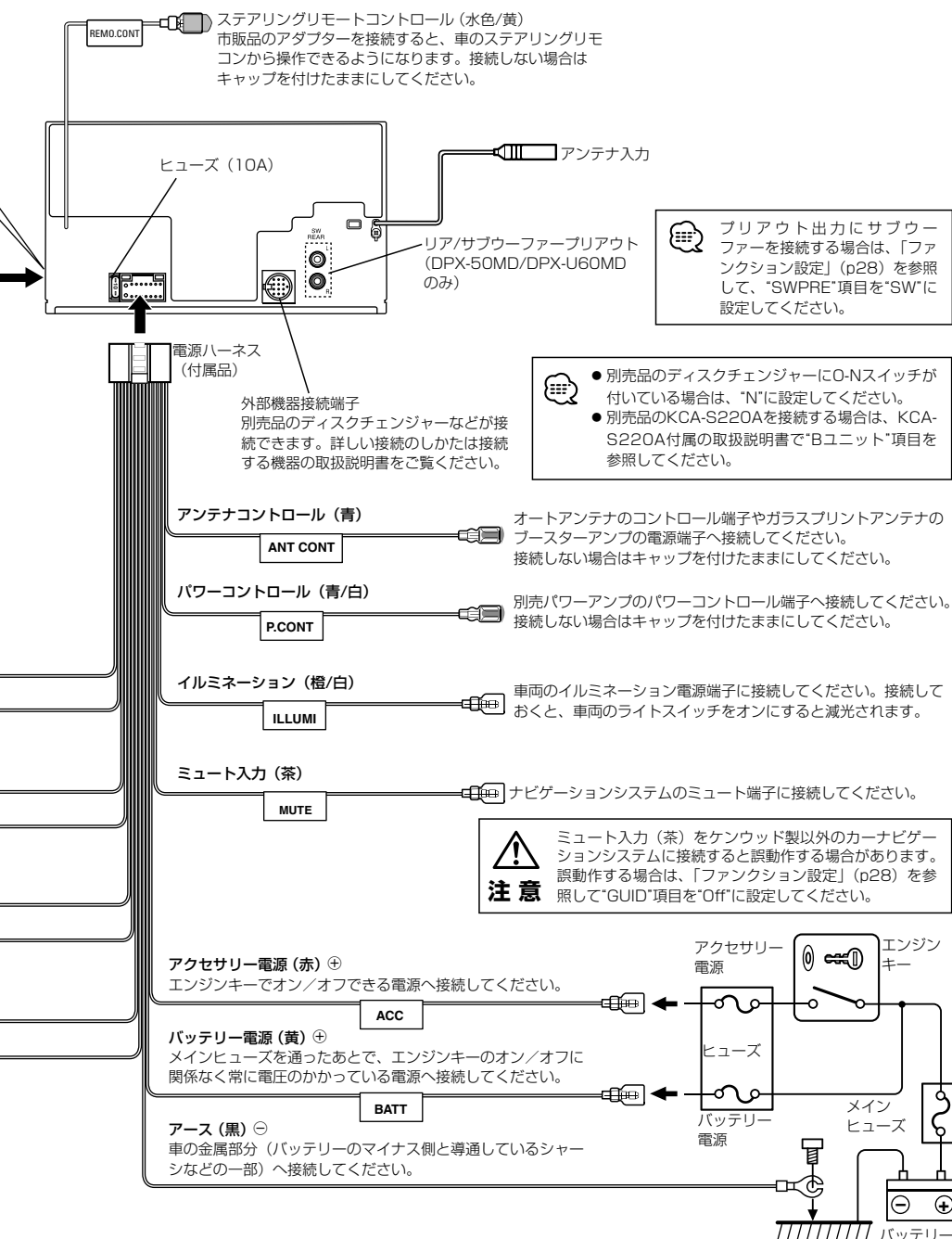
接続しないスピーカーコードの端子は、端子に保護テープを巻くなどの絶縁処理を行ってください。

プリアウト出力にサブウーファーを接続する場合は、「ファンクション設定」（p28）を参照して、“SWPRE”項目を“SW”に設定してください。

- 別売品のディスクチェンジャーにO-Nスイッチが付いている場合は、“N”に設定してください。
- 別売品のKCA-S220Aを接続する場合は、KCA-S220A付属の取扱説明書で“Bユニット”項目を参照してください。

注意

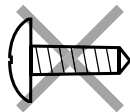
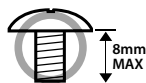
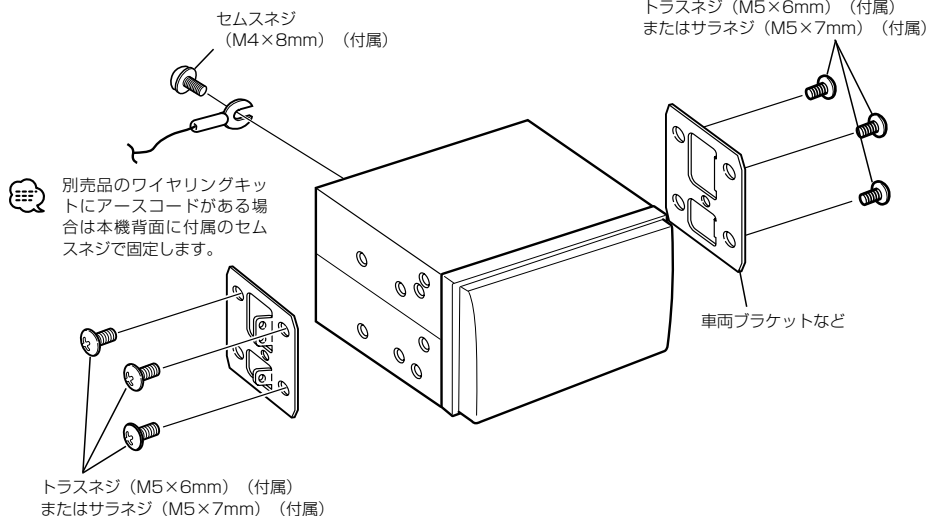
ミュート入力（茶）をケンウッド製以外のカーナビゲーションシステムに接続すると誤動作する場合があります。誤動作する場合は、「ファンクション設定」（p28）を参照して“GUID”項目を“Off”に設定してください。

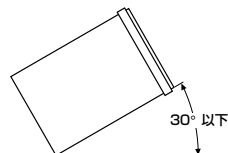
接続

取り付け

付属のトラスネジ（M5×6mm）またはサラネジ（M5×7mm）を6本使用して車両ブラケットなどに取り付けます。

付属ネジ	個数
トラスネジ (M5 × 6 mm)	6
サラネジ (M5 × 7 mm)	6
セムスネジ (M4 × 8 mm)	1

注 意

取り付けには必ず付属のネジをご使用ください。
付属以外の長いネジを使用すると、本機内部が破壊したり、発煙することがあります。また、短いネジを使用すると、本機が取付ブラケットなどから外れることがあります。
なお、取り付けネジはトラスネジおよびサラネジが付属しています。車両に合ったネジをご使用ください。

取り付け前にディスクで動作確認をする場合は、本機を水平な状態にしてローディング/イジェクトを行ってください。

注 意

- **本機の取り付け角度は30˚以下になるように取り付けてください。30˚以上の角度で取り付けると音飛びの原因になります。**
- **操作パネルを持って取り付け/取り外しをしないでください。破損することがあります**

- 別売品のワイヤリングキットや取り付けキットを使用することにより、車にベストフィットした取り付けができます。キットは取り付ける車種に応じて用意されています。詳しくは販売店にお問い合わせください。

保証とアフターサービス　必ずお読みください

保証について

● **保証書**

この製品には、保証書を別途添付しております。
保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

● **保証期間**

お買上げの日より1年です。

修理を依頼されるときは

「Help? Troubleshooting」（p35）を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の電源をオフにして、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、営業所にお問い合わせください。（裏表紙「ケンウッド全国サービス網」をご参照ください。）

修理に出された場合は、お客様が登録、設定したメモリー内容がすべて消去されることがあります。あらかじめご了承ください。

● **保証期間中は...**

保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、営業所が修理させていただきます。ご依頼の際は保証書をご提示ください。
本機以外の原因（衝撃や水分、異物の混入など）による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間経過後は...**

お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。
補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後6年です。
（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

● **持込修理**

この製品は持込修理とさせて頂きます。

- ● 本機をお持ちになるときは、接続しているユニットも一緒にお持ちください。
（本機や一緒に持ち込まれるユニット内のディスクやテープなどのメディアはあらかじめ取り出してください。）
- ● 製品を修理に持ち込まれる際は、輸送中に傷が付くのを防ぐため、包装してください。

● **修理料金のしくみ**（有料修理の場合は、つぎの料金が必要です。）

- ● 技術料：**故障した製品を正常な状態に修復するための料金です。**
技術者の人件費、技術教育費、測定器等設備費、一般管理費等が含まれます。
- ● 部品代：**修理に使用した部品代です。**
その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。

なお、アフターサービスについてご不明な点は、お買上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、営業所にご遠慮なくお問い合わせください。

仕様一覧

FMチューナー部

受信周波数範囲（周波数ステップ）
：76.0 MHz～90.0 MHz （100 kHz）
実用感度（S/N：30 dB）
：9.3 dBf（0.8 μV/75 Ω）
S/N 50 dB感度
：15.2 dBf（1.6 μV/75 Ω）
周波数特性（±3.0 dB）
：30 Hz～15 kHz
S/N比
DPX-40、DPX-50MD：75 dB（MONO）
DPX-U60MD：70 dB（MONO）
選択度（±400 kHz）
：80 dB以上
ステレオセパレーション
DPX-40、DPX-50MD：30 dB（1 kHz）
DPX-U60MD：40 dB（1 kHz）

AMチューナー部

受信周波数範囲（周波数ステップ）
：522 kHz～1629 kHz（9 kHz）
感度
：28 dBμ

CDプレーヤー部

レーザーダイオード
：GaAlAs
デジタルフィルター（D/A）
：8倍オーバーサンプリング
D/Aコンバーター
：24Bit
回転数
：500～200 rpm（線速度一定）
ワウ& フラッター
：測定限界以下
周波数特性
：10 Hz～20 kHz（±1 dB）
高調波歪率
：0.008 %（1 kHz）
S/N比
：105 dB（1 kHz）
ダイナミックレンジ
：93 dB
MP3デコード
：MPEG-1/2 Audio Layer-3準拠
WMAデコード
：Windows Media™ Audio 準拠
AACデコード
：AAC-LC “.m4a” ファイル

MDプレーヤー部 （DPX-50MD/DPX-U60MD）

レーザーダイオード
：GaAlAs
デジタルフィルター（D/A）
：8倍オーバーサンプリング
D/Aコンバーター
：1Bit
回転数
：900～400 rpm
ワウ & フラッター
：測定限界以下
周波数特性
：20 Hz～20 kHz（±1 dB）
高調波歪率
：0.01 %（1 kHz）
S/N比
：90 dB（1 kHz）
ダイナミックレンジ
：90 dB

カセットテーププレーヤー部 （DPX-40）

テープスピード
：4.76 cm/秒
ワウ&フラッター
：0.1%（WRMS）
周波数特性（±3 dB）
：40 Hz～20 kHz（70 μs）
S/N比
：50 dB（Dolby B NR off）
：60 dB（Dolby B NR on）

USB I/F部（DPX-U60MD）

USB規格
：USB 1.1/2.0
ファイルシステム
：FAT16/32
最大供給電流
：500 mA
MP3デコード
：MPEG-1/2 Audio Layer-3準拠
WMAデコード
：Windows Media™ Audio 準拠
AACデコード
：AAC-LC形式 “.m4a” ファイル

オーディオ部

最大出力
：50 W × 4
定格出力
：30 W × 4（4Ω、1kHz、10%THD以下）
プリアウトレベル（FM）（DPX-50MD/DPX-U60MD）
：2.5 V/10 kΩ
プリアウトインピーダンス（DPX-50MD/DPX-U60MD）
：600 Ω以下
スピーカーインピーダンス
：4 – 8 Ω
トーンコントロール
Bass：100 Hz ±8 dB
Middle：1 kHz ±8 dB
Treble：10 kHz ±8 dB

AUX入力

周波数特性
：20 Hz〜20 kHz （±1 dB）
最大入力電圧
：1200 mV
入力インピーダンス
：10 kΩ

電源部

電源電圧
：14.4 V（11〜16 V）
最大消費電流
：10 A

寸法・質量

埋込寸法（W×H×D）
： 178×100×155 mm
質量（重さ）
DPX-U60MD：1.85 kg
DPX-50MD：1.8 kg
DPX-40：1.95 kg

付属部品

電源ハーネス
：1本
トラスネジ
：6本（M5×6mm）
サラネジ
：6本（M5×7mm）
セムスネジ
：1本（M4×8mm）

※これらの仕様およびデザインは、技術開発にともない予告なく変更になる場合があります。

ケンウッド 全国サービス網

アフターサービスについてのお申し込みは、購入店かお近くのケンウッドサービスセンターへお申しつけください。

北海道			
札幌サービスセンター	〒 007-0834	札幌市東区北34条東14丁目1-23	☎ (011) 743-7740
東北			
仙台サービスセンター	〒 984-0042	仙台市若林区大和町5-32-12 (サンライズ大和)	☎ (022) 284-1171
関東・信越			
さいたまサービスセンター	〒 330-0801	さいたま市大宮区土手町1-2 (JA共済埼玉ビル1F)	☎ (048) 647-6818
千葉サービスセンター	〒 277-0081	柏市富里1-2-1	☎ (04) 7163-1441
横浜サービスセンター	〒 226-8525	横浜市緑区白山1-16-2	☎ (045) 939-6242
新潟サービスセンター	〒 950-0923	新潟市姥ヶ山1-5-37	☎ (025) 287-7736
目黒サービスセンター (修理持込専用窓口)	〒 153-0042	目黒区青葉台3-17-9	☎ (03) 3477-5411*
*目黒サービスセンターへの電話でのお問い合わせは、当社カスタマーサポートセンターに転送にて承ります。			
中部・甲州			
名古屋サービスセンター	〒 462-0861	名古屋市北区辻本通1-11	☎ (052) 917-2550
静岡サービスセンター	〒 420-0816	静岡市葵区沓谷5-61-1	☎ (054) 262-8700
金沢サービスセンター	〒 920-0036	金沢市元菊町21-87	☎ (076) 265-5045
近畿・四国			
大阪サービスセンター	〒 532-0034	大阪市淀川区野中北2-1-22	☎ (06) 6394-8075
高松サービスセンター	〒 760-0068	高松市松島町3-1	☎ (087) 835-2413
中国			
広島サービスセンター	〒 731-0137	広島市安佐南区山本1-8-23	☎ (082) 832-2210
九州			
福岡サービスセンター	〒 815-0035	福岡市南区向野2-8-18	☎ (092) 551-9755
鹿児島サービスセンター	〒 890-0063	鹿児島市鴨池2-15-10 (パレス鴨池1F)	☎ (099) 251-6347
沖縄サービスセンター	〒 901-2101	浦添市西原4-36-17（（株）物琉2F）	☎ (098) 874-9010

■ サービスセンターの営業時間のご案内
受付時間　10:00～18:00（土曜、日曜、祝日および当社休日は休ませていただきます）
（各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください。）

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒 192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3

● 商品に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。

ナビダイヤル　0570-010-114（一般電話・公衆電話からは、どこからでも市内通話料金でお問い合わせが可能です）
携帯電話、PHS、IP電話からは 045-933-5133
FAX　045-933-5553
住所　〒226-8525 神奈川県横浜市緑区白山1-16-2
受付時間　月曜～金曜　9:30～18:00
土曜　9:30～12:00、13:00～17:30
（日曜、祝日および当社休日は休ませていただきます）

● 修理などアフターサービスについては、お買い上げの販売店、または「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービスセンター、各営業所にご相談ください。